

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890600024		
法人名	特定非営利活動法人かつちやまふあみりーぐるーぷ		
事業所名	グループホームはなみずき		
所在地	福井県勝山市立川町1丁目11-24		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 8 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和 5 年 11 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

3年間のコロナ禍にあっても、ほとんど面会制限は行わず、昨年は、老衰や癌末期の方の看取りを家族とともに行った。今年の9月においても、老衰で1名の方を看送った。また、肺炎予防のために口腔ケアをしっかりと行い、ほとんど肺炎での死亡はない。このように、グループホームにあっても、最後まで、安心して生涯を送られるように、看護師、医師の連携体制を整え、ターミナルケア、看取りケアを実施している。日常生活においては、天候の良い日に、外気浴や散歩を日課として実行している。利用者の心身両面の健康管理に気をつけ、認知症が進行しないよう努力している。できるだけ、日々のかかりにおいて、体操や、歌を歌う、また、犬とのふれあい等を通して、笑顔が出るように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所はデイサービスセンターを併設し、近隣に公園やふれあい会館がある勝山市の旧市街地に位置している。理念・行動指針に基づき、各職員に「あなたならどう思う?」との指導を行い、利用者が穏やかにその人らしく暮らせるようなサービス提供を日々行っている。また、かかりつけ医・看護職員・介護職員が連携を取り、本人・家族の希望に沿ったターミナル・看取りケアができるように努めている。定期的な訪問歯科診療があり、口腔ケア・口腔内環境の維持・改善を図り、肺炎予防や安全な食事摂取等へ熱心に取組んでいる。コロナ禍であっても面会や外出支援などは継続し、家族との関係継続に努めてきた。避難訓練では火災や地震、水害のみならず、地域に即した雪害にも取組み、利用者の安全確保を図っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日朝礼時にはなみずきの理念を唱和し、意識して実践している。また、行動指針やユニットの年間目標を挙げ、できることの継続や向上に努めている。	事業所理念・行動指針をフロアに掲示して実践に繋げると共に、朝礼時の唱和で意識付けを図っている。また、個人目標を設定し、日々のサービスに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所を散歩し、地域の方と挨拶を交わしている。理髪は近所の理容室を利用しているコロナ禍の2年間は夏祭りは家族と利用者からのみの参加。しかし今年の地区の夏祭りには、利用者と職員が参加している。また、地区の防災訓練にも職員4名が参加。	地区行事(祭り・防災訓練等)へ参加するほか、施設周囲を散歩したり、近隣の理髪店やスーパーマーケットを利用するなど、地域との交流に努めている。また、ボランティア(散歩・傾聴・イベント等)や子供会・幼稚園の訪問も受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方たちと夏祭り等の交流や、や、運営推進会議を通して、認知症の介護状況などを通し、実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。地区の区長、老人会会長、民生委員、学識経験者などと職員代表で話し合い、サービス向上に活かしている。	2か月ごとに開催し、多種の構成員が参加している。質問や意見・要望は運営に反映し、議案によっては消防署職員も参加する。議事録は玄関に設置し、誰でも閲覧することができる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者と相談しながら取り組んでいる。運営推進会議や地域密着型サービス事業所連絡協議会にも担当者に参加していただき意見を頂いている。	運営推進会議開催時やイベント等を通じて、市職員と情報共有を図り、気軽に相談ができる協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒防止のため、ふらつきのある利用者やベッドからの転落の危険がある利用者には、家族の同意を得てコールマットを使用し、速やかに対応している。玄関の施錠は夜間のみで、日中は開錠されている。開業以来、身体拘束は転倒防止によるベッド柵の使用以外、ほとんど実施していない。また、ベッド柵による拘束も10年ほど実施していない。また、身体拘束の予防として不適切ケアに対して、取り組んでいる。	委員会の設置や施設内外研修への参加を通して、個々の職員が身体拘束への理解を深める機会を設けている。伝達講習により職員間の認識共有を図っている。「相手の立場に立った考え方」に基づき、スピーチロック等の不適切ケアの発生予防に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	着替えや入浴時に全身のチェックを行い、あざや怪我の有無を確認している。あざができていない場合、アクシデント報告書に記入し、あざの現認について取り組んでいる。虐待防止委員会を設けており、グループホームとデイサービスの現状報告と検討を行っている。外部研修に参加した職員は、職員会議で内容を報告し、他の職員も知識を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年までは自立支援事業を利用される方がおられたが、現在ははいない。日ごろから、利用者の権利については、職員と話し合っており、必要時活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書、重要事項説明書に基づき説明している。重度化した場合の対応指針、看取りに関する事前説明を行い、家族の要望や意見を聞くよう努めている。また、随時、家族には説明を行い、理解していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回開催予定。すでに2回開催しており、家族の意見や要望を聞いている。また、家族面会時には、職員が声かけし、気軽に話せる雰囲気作りに努めている。面会時に家族が困っていることがないか聞き、その意見を参考に運営に反映させている。例えば、「シーツ交換の日がわかるようにしてほしい。」等の要望に対しては、居室のカレンダーに記入するなど。	定期的に家族会を開催し、意見や要望を聞き取る機会を設けている。得られた意見や要望は職員間で情報を共有し、より良い施設運営に向けて反映している。	アンケートの実施や意見箱設置を再開することで家族が意見・要望を表し易い環境が整備される。出された意見等をより良い施設運営に反映されることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議、代表者会議にて職員が自由に意見を言い合える場を設けている。また日常においても、常に相談しあえる関係性作りを心がけ、意見や提案をサービスに反映させている。	ユニット会議や年2回の個人面談時に意見等を聞く機会を設けている。新任者に対しては面談回数や声掛けの機会を多くし、不安解消等に繋げている。グループラインを活用し、発言し易い環境整備にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則や賃金規定などを定期的に見直し、できるだけ働きやすい環境づくりに努めている。労働時間については超過するときもあるが、超過理由により時間外手当や給与として支払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初心者の採用の場合は、県社協の初任者研修全項目を受講している。また、外部研修を受けた場合、その伝達講習を行う場を設け、職員全員で共有し、知識を深めたり刺激を受ける機会を提供している。歯科往診時に研修会を実施している。また、職員が研修を担当し、防災、虐待、身体拘束、感染対策などの知識を深めるよう努めている。今年度は、救急法に関して、消防署職員による勉強会も開催した。これらのことにより、職員は新たな気づきや視点がいただき、向上につながっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内での地域密着型サービス事業所連絡協議会を設けてあり、年4回開催し、お互いの情報交換や勉強会を開催している。今年10月に勉強会等の研修会を開催した。お互いに学ぶことにより、知識向上につながっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族が不安に思っていることに耳を傾けている。サービス導入前に同じ建物にあるデイサービスや泊りサービス等を体験してもらうなど、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族らと話し合いの場を設け、困っていることや不安に感じていることを聞いている。話し合いを通して、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が施設見学時に、話し合いの場を設けている。家族の思いを聞いたうえで、デイサービスや宿泊サロンの利用を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物干し、食事の盛り付け、テーブル拭きなど利用者にしてもらえることをしてもらっている。できることをしてもらい、利用者の生きがいを見つけていただけるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍のため今年は、利用者と職員、希望する家族のみの参加で夏祭り、敬老会などを実施した。面会制限はほとんど行わず、感染対策をしっかり行い、家族等の面会も実施していた。家族の絆を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隔月、はなみずき便りで、利用者の様子を家族に伝えている。昨年ではできなかったはなみずきの夏祭り、敬老会において、今年は家族の参加を呼びかけ参加していただいた。また、利用者宅にドライブで馴染みの場所に出かけた。	利用者の生活習慣や馴染みの関係を事前にアセスメントし、職員間で情報共有している。隔月発行の広報誌で利用者の現状を伝えている。個室面会や散歩・ドライブ等を実施し、家族や馴染みの場所との関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話が弾むよう努力している。なかなか協調性がなく、利用者さん同士でトラブルになったり、ストレスが生じるような場合は、その都度、席替えを行ったり、できるだけ、お互いに気持ちよく過ごせるように環境の配慮をしている。外気浴や散歩時に職員が話題を提供し、作業時は、皆がなんらかの参加できるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	1か月以上の入院で一旦、退所された方に対して、家族の相談や希望を聴いて、3か月以内であれば、再度入所できるように支援を行っている。また、入所を希望されない方に対しては、希望に沿うように関連機関と連絡を取りながら支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何が大切か？必要か？を考え、支援につながる気づきや改善、検討など、職員間で共有できるようにしている。日々の介護やケアプランを定期的に見直し、利用者の要望、希望を第一に、能力的に難しい事柄でも、可能な限り本人本位に検討している。	日々の関わりの中で表情や動作、会話から利用者の思いや意向を把握している。気付いたことは随時記録に残して職員間で情報を共有している。また「あなただったらどう思う？」との問い掛けを職員にすることで、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の生活や話から、生活歴や嗜好品などを把握する様に努めている。その為に利用者とのコミュニケーションを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動や行動、表情、等、一人一人の把握に努めている。又、状態の変化を把握し職員が共有する事で適切なケアを受けていただけるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、医師などの意見や意向を反映したケアプランを作成できるよう務めている。モニタリング評価を行い、6か月ごとに見直し、変化があれば随時プラン変更を行っている。	毎日ケアプラン実施状況をチェックし、定期的にモニタリングを行い、本人・家族・ケアマネジャー等の関係者が話し合い、現状に即した介護計画を作成している。また、身体状況等に変化が見られた場合には随時ケアプランを変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、アセスメント等個別記録し職員間で情報共有し、実践や計画に活かしている。又、担当者会議や部門会議で情報交換や意見を出し合いより良いケアに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が高齢になり、重症化し、家事等のできることが少なくなった時期より、障害者施設の方との交流として、掃除業務を請け負ってもらっていたが、障害者施設の都合により、継続不可能となり、現在は介護助手の導入により、できない部分を補っている。このように、その時々本人や家族のニーズ出来る限り合わせたサービスを提案し柔軟に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年の敬老会より、外部のボランティア再導入し、利用者が新鮮な思いで楽しみができるように支援している。外気浴や散歩の際に近所の方と挨拶し、地域に受け入れられ安心して生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関を整えていて、現在は、3か所の医院からの往診を受けている。主治医に関しては、本人及び家族の意向が最優先で、かかりつけ医があればそのまま継続していただいている。通院は原則家族に依頼しており、必要時診療同伴している。往診および受診いづれに関しても、ホームからの情報提供用紙に基づく情報を行っている。必要時電話による情報交換もを行っている。	本人・家族の希望に沿って、継続してかかりつけ医の受診、往診ができる。受診は家族対応が基本であるが、必要時には職員が同行している。受診時には書面にて情報提供を行っている。毎月1回訪問歯科診療があり、口腔ケア・口内環境維持・改善への支援体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、利用者の状況や服薬時の状態など、情報を共有し変化などに気を配っている。また看護職から効果的な服用方法なども指導を受けている。このように介護職、看護職、必要時訪問看護師(リハ)等と互いに連携を図りながら協働し、利用者の情報や気付き等、常に情報交換している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、病院の地域連携室や相談員と連絡を取り合い、情報収集に努めている。退院に向けても回復状況を確認し退院支援に繋げている。このように、利用者の状態把握に努め、寄り添った介護を行えるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について入所契約時に説明、意向を確認している。終末期と判断する時期に再度家族と話し合いの場を設け、食事や衛生面、介護を通じて、心穏やかに過ごせるよう、対応について話し合い、要望を確認、方針を共有している。また、看取り時期には、家族とともに行うことも伝え、ご家族が付き添ったりして協力し合い、支援している。	入所契約時に重度化・終末期に対する施設方針を説明している。段階ごとに家族と話し合い、要望を確認しながら褥瘡を作らないケア・口腔ケアの充実を図り、穏やかに終末期を迎えられるよう看護師・看取り経験のある多数の介護職員による支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを備え周知している。多い転倒事故の対応について会議やミーティングで周知を図り、現場でもその時々に対応を確認している。応急処置など勉強会を通じて学び、フローチャートでのマニュアルは見える場所に貼り、慌てている状態でも対応できるようになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際の避難訓練や資料による勉強会などで学習し、避難訓練も毎回小野路ことを行うのではなく、反省を生かし改善を行っている。それに伴いマニュアルの見直しも実施している。地域の災害訓練に参加したり、運営推進会議で話し合ったりして、協力体制が築けるようにしている。	火災・地震・水害・雪害を想定した避難訓練を実施している。運営推進会議時に消防署職員から避難時の改善点や注意点の指導を受け、防災委員会にてマニュアルを随時改訂し、適切な対応が取れる体制作りを取組んでいる。	災害発生時には複数の災害(停電等)が併発することも考慮し、より実践的な訓練の実施や必要な備品・地域との協力体制等について検討されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念や行動指針に従い、利用者を敬い、なれ合いにならないように、指示的な言葉や、友達言葉を使わないように注意し、丁寧な言葉かけで接している。具体的には、排泄リズム、立ち上がり等で排泄サインを把握し、トイレでの排泄を促し、汚染が内容清潔保持に努めている。尿漏れのない方に対しては、布パンツを使用し皮膚トラブルがないように配慮している。利用者の誇り、プライバシーを損傷するような言葉遣い、態度になっていないかを気を付け接している。職員が不適切な対応をとった場合、職員本人が気を付けるような指導を職員同士で行っている。	職員は理念や行動指針に沿った適切な言葉かけを心掛けている。不適切な対応が見られた場合は、立場を自己に置き換えて考えるよう・職員自らが気付けるように管理者が指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望や要望を言いやすく、又、日々の関わりを大切に、慌てず、職員が引き出せるような雰囲気を作り心掛けている。本人の思いを大切に、その都度確認し物事を行うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食後は利用者の体調に合わせて、休んで頂くなど、利用者の体調や、要望に合わせて臨機応変に対応している。穏やかに過ごしていけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれに関心がある方には、自分で洋服を選んでもらっている。気にされていない方にもおしゃれ心が出るように声掛けをしている。衣類の汚れにも注意し、着替えるよう、また、清潔感が出るように爪、整髪、髭剃りなど声掛けをしている。散髪は、3か月ごとに近くの理髪店に行き、行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けなどは、利用者と共にしている。食事をおいしく食べていただけるように、せかさず、利用者のペースで食べていただけるように雰囲気づくりを大切に、見守り介助している。また、行事に合わせて利用者の好物のぼた餅や、笹寿司、牛丼を出したり、郷土料理など利用者に教えていただきながら食事を提供している。	利用者の誕生日に合わせた誕生会やお楽しみ昼食(行事食)を実施している。利用者に合わせて、食材ごとに形態を変えて安全に美味しく食事ができるよう工夫している。食事の盛り付けや簡単な作業は利用者と共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は毎回確認している。飲み物だけの水分を1200～1500ml摂取できるように各々の体調、嚥下状態に合わせて、常食、極刻み食で食事を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、緑茶や洗口液を使用し、口腔ケアを実施している。歯茎に合わせた歯ブラシを使用し、義歯のある方は自分ではできるだけ取り外していただけるように支援している。自分ではできない方や不十分な方には職員が介助している。また毎月1回の歯科医師による口腔ケア指導により、助言をいただいている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムや立ち上がり等排泄のサインを把握し、トイレでの排泄を促し、なるべく汚染がないよう清潔保持に努めている。また、尿漏れの少ない方に対しては、布パンツを使用し、皮膚トラブルがないように配慮している。	介護ソフトを使用し、随時排泄状況を入力・確認すると共に、日々の排泄サインや利用者ごとの排泄パターンに合わせてトイレ誘導介助をしている。朝食時に豆乳を提供し、日常的に体を動かすことで排泄機会の確保に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事以外の水分摂取量1200ml～1500ml/日を目標とし、本人の好みに合わせた水分を1回50cc～150ccで、その方が1回で飲み切れる量を、こまめに提供している。また、排便調整ができるように、牛乳、きな粉、納豆、ヨーグルト等は毎日提供。散歩や体操等も実施しており、排便調整ができるように工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個別入浴を最低週2回行っている。入浴方法は、リフト浴、一般浴と状態に合わせ、安全に安心して入浴できるように支援している。また、好みの湯の温度に調整し、安全を第一に考え、慌てさせず、ゆっくりと湯に浸り、職員との会話や関わりを楽しめるように支援している。足のケアに関しては、清拭、足浴でリフレッシュできるよう支援している。	週2回入浴することができる。浴室には一般浴槽とリフト浴槽があり、身体状況に合わせて安全かつ安心して入浴ができる設備を整えている。体調に合わせて清拭・足浴対応も可能である。季節ごとに柚子湯や菖蒲湯といった季節湯を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整えるため、毎朝の外気浴や周辺散歩を実施している。夕食後も利用者同士で談話したり、テレビを見たりして過ごし、20時頃就寝している。疲れやすい方は随時休んで頂いている。また、座位による圧迫で褥瘡ができやすい方は早めに臥床し、2時間ごとに体位変換をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人用薬剤情報ファイルを確認し、職員一人一人が利用者の状況を把握、理解できるよう努めている。また、介護職では判断できない症状がみられる場合は早めに看護師に報告し、指示を仰いでいる。服薬介助時には、チェックシートを見ながら、誤薬ミスを防ぐため、職員二人で指差し確認でWチェックを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者からのリクエストやで外食を発注したり、お天気が良い日は外でのランチを行っている。食器洗いや彩良く食事の盛り付けをされ、役割と自信につながるなど、談話を楽しみ明るい笑顔がよく見られる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物、または、季節に応じたドライブや夏の暑い時期の涼を求めてのドライブや散歩等支援している。また、天気の良い日には近所、周辺の季節の移り変わりを楽しんでいただき、地域の方たちとの交流を深めている。	日常的に施設周辺の散歩に出かけたり、商店に買い物に出かけて地域住民との交流機会に繋げている。季節行事も多く、利用者はドライブで季節の移り変わりを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者との買い物は週1回行っており、必要物品の購入やレジでの支払いなど職員とともに行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者には年賀状を書いて頂いたり、七夕の短冊に願い事を書いて頂くなど、声掛けや支援をしている。家族も本人からの年賀状を楽しみにしていて、双方の年賀状のやり取りが継続できている。電話をかけて欲しい時には、職員がかけて、本人と代わり話しができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから、土縁に出られるようになっており、また、施設で飼っている犬も職員玄関にいますので、利用者は、犬と戯れたり、土縁から外の空気を味わったりしている。ホールや廊下の壁に季節や月ごとに利用者と共に作った作品や写真を展示している。利用者同士の相性にも配慮し、席を決めており、自分の部屋以外でもくつろげるように努めている。	天井は高く広々としており、採光も多い。壁面には行事写真や利用者の作品を飾り、楽しく穏やかな雰囲気が感じられる共用空間である。土縁に出られる窓からは近所の公園の情景を見ることができ、移りゆく季節を感じることができる。廊下には休息し易いように、所々にソファや椅子を設置している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールが広く、テーブル、椅子の他に長椅子をあちこちに置き、他者のいる空気を感じながらも一人で過ごせる場所を確保でき、寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族と相談しながら、自宅で使っていたタンスや布団を持参していただき、利用者の目を楽しませる置物や花、家族の写真を飾って居心地良く過ごせるように支援している。	居室にはベッド・クローゼット・洗面台を備え付けている。馴染みの家具を持ち込み、家族写真や作品を飾ることで居心地良く過ごすことができる。居室ごとに壁紙や出窓など異なった仕様となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールには日めくりカレンダーや当日の献立表を掲示して日付や食べたものの確認ができるようにしている。トイレや自分の部屋の場所が分かるよう案内板を付けている。散歩時の玄関の階段、入浴時の浴槽への階段など、職員の見守りのもと安全に注意しながら階段昇降を支援している。		